

# 共に歩む市民の会

たまり場広報委員会

## 会 報

第 12 号

☎241-0002

横浜市旭区鶴ヶ峰 2-2-4

☎045-953-6727

2004年9月15日発行

### 旭区らしい生活支援拠点を求めて

高野 静子

今年は、異常なほどの暑い日が続いております。

3月一杯で、仕事から解放された私は、開放感のもとルンルン気分で、マイペースに楽しく過ごしてきたのですが、この暑さでやや疲労気味です。

さて、この暑い最中「市民の会」では、旭区生活支援拠点開設準備検討会を週1回のペースで行っています。メンバーは、幹事の人たちを中心に、旭福祉保健センターの岡係長、森MSW、衛生局の松島さんなど。みなさんは、仕事で疲れた頭を、「夢と現実」に向かわせながら、冷たいビールの誘惑にも負けずに熱い“ギロン”を闘わせております。

昨年度（15年度）、旭区地域精神保健福祉連絡会（旭福祉保健センター主催）で「旭区らしい生活支援のあり方」について検討をしてきました。その報告書を土台としながら、いまとある市内の生活支援センターとは異なる「旭区らしい拠点」とは、また、この6年間「たまり場」で展開してきた、メンバーによるフリースペースの運営、木々の会の人たちによる夕食会、ボランティアとメンバーによる語らい電話、旭びあくらぶの活動などをどう継続させるのかなど、話し合っています。現在進めている主なことは

① 「共に歩む市民の会」のNPO法人化

6月4日に県に申請。10月頃に認可される予定です。

② 「旭区らしさ」を考える時の視点

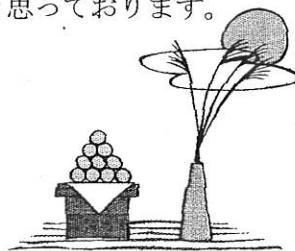
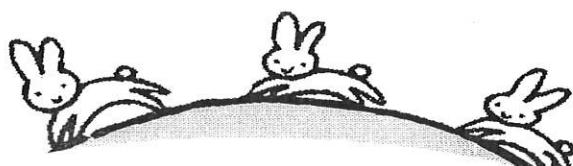
- ・家族会との連携（親亡き後も視点に入れた支援）
- ・地域ネットワークの拠点（関係機関、ボランティア、他の障害者団体、市民など）
- ・来る人だけの場ではなく、出かけていく場 一緒に行動する場
- ・スタッフもメンバーも交流し協働していく場
- ・福祉保健センターとの連携

“一緒に考え 一緒に行動する場”をモットーに、ゆっくりと利用者と共に考えていくこうと思っています。そういう意味では、安定した場というよりは、共に創り出す課程を楽しむ場であったらいいなーと私は思っております。

ぜひ、会員の方々も「旭区らしい拠点」づくりに参加してみませんか。いろいろなご意見、ご希望をお待ちしています。拠点のオープンは平成17年1月を予定しています。

拠点の名前を募集しております。10月までには、ぜひ名前を決めたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

残暑の厳しい毎日が続いております。ご無理なさいませんように。



## ～平成16年度のピアサポート事業～

旭びあくらぶ 武田 浩司

平成15年度よりピアサポート事業が始まり、出張サポート（病院などへの付き添い、相談や話し相手、映画やショッピング、カラオケ、野球観戦等の友達付き合い）が今現在に至るまで続いております。そして更なる発展の為イベント（ズーラシア見学や食事会、虫観賞等）を行い親睦を深めたり定例会で読書会などを開き啓蒙も行っています。そして旭びあくらぶの足跡を刻む為、近々新聞も発行していく予定です。

「共に歩む市民の会」のNPO法人化に伴い「旭びあくらぶ」も大きく成長していきたいと思っております。多くのみなさまのご利用と参加をお待ちしております。

### \*旭びあくらぶ\*

毎週水曜日 13:00~16:00

毎週木曜日 10:00~16:00

電話 953-6727 (たまり場) まで



## ～電話ボランティア養成講座に参加して～

松元紀子 森輝幸

つい先日ですが、8月21日(土)・22日(日)の両日、旭区役所大会議室において、電話ボランティア養成講座が行われました。講師は電話相談では有名な日高先生で、ワークショップ形式で行われ、大変好評でした。この講座は、高齢者に対する「ふれあいコール」と共に歩む市民の会の「語らい電話」のボランティア育成を目指したもので、1日目に参加された松元さんに感想をうかがってみました。

森 「とてもユニークな講師の先生でしたがどんな印象を持たれましたか？」

松元 「理屈だけでなく体験豊富な中で人の心のふれ合いを知る先輩という感じでした。」

森 「印象に残った内容はありましたか？」

松元 「いろいろな応答技法をロールプレイで学ぶことができて、実際の活動の参考になると感じました。」

森 「皆さんにアピールしていただけますか？」

松元 「先生の美しい歌声にリードされ『翼を休めに来ませんか（沖縄の歌）』を合唱しても楽しかったですよ！！皆様ぜひお気軽にご参加ください。」

\* 来年度もこの講座は開催致しますので、興味のある方ぜひご参加をお待ちしております。

## 「ウイングス」移転しました！！

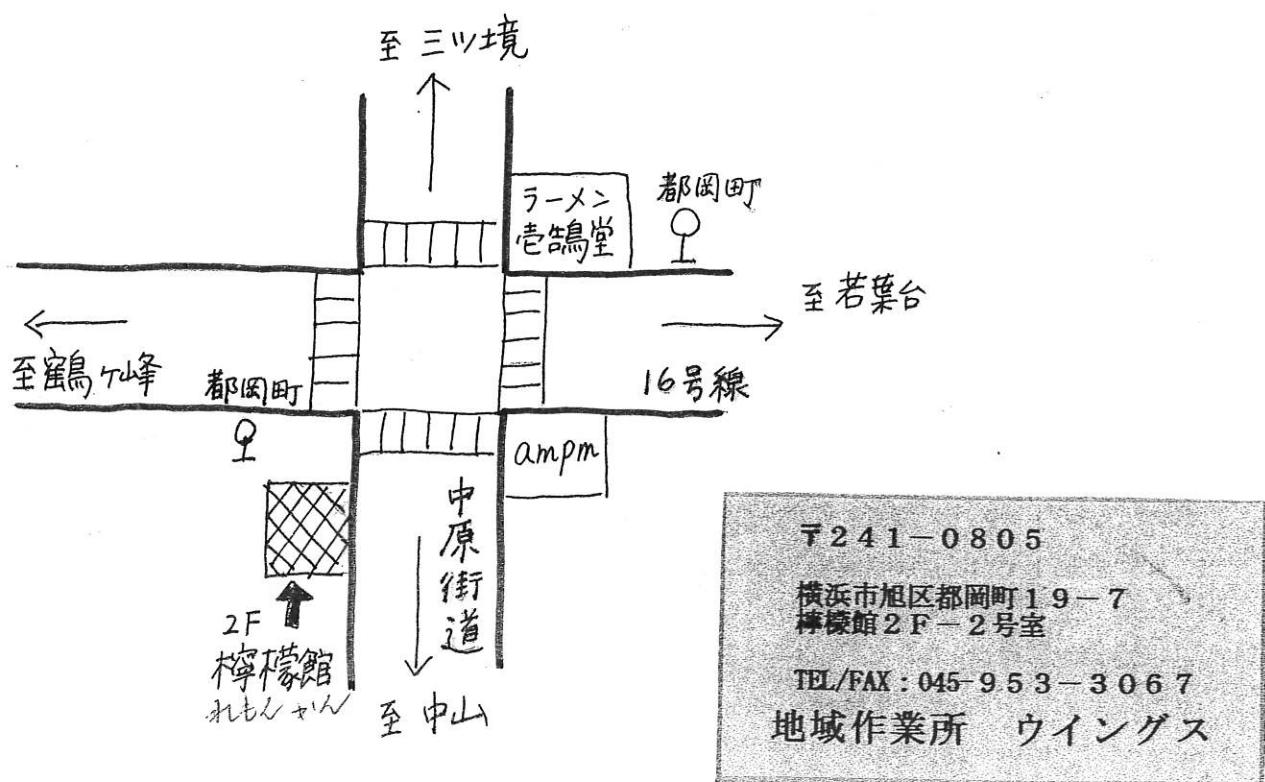
約9年近くいた「希望ヶ丘」を離れて、昨年の11月に「都岡町」に移転しました。

鶴ヶ峰駅からはバスで10分位、16号線と中原街道の交差したバス停(都岡町)から徒歩1分の所です。昨年できたばかりの新しい建物の2階で広さは約110m<sup>2</sup>あり、天井が高く、とても開放的です。トイレは1つ増やし男性用と女性用を作りました。また、メンバーから「横になれる畳の部屋が欲しい」という強い要望があったので、休憩室も作り、喫煙所には分煙テーブルが置いてあります。

広いオープンスペースにはゆったりとできるソファベットがあり、真ん中には大きなミーティングテーブルがあります。それに、テレビ・カラオケ・コンポもあり、ノートパソコンでインターネットもできます。

作業のメインは、神奈川病院の売店「夢ポケット」を経営しています。ひとり一人が経営者として、商品の日用雑貨、食料品等の仕入れや商品・金銭管理、帳簿記入など協力しながらを行い、経営方針などを話し合い、確認しながら運営しています。「夢ポケット」は月曜日から土曜日の9時から16時まで営業しています。スタッフとメンバーが午前と午後のシフトを組んで販売員を勤めています。(土曜日はスタッフのみの営業です。)週に2回、火曜日と金曜日には入院病棟に出張販売にも行きます。(商品をワゴンに乗せて販売することから「ワゴンサービス」と呼ばれています。)

売店の近くに移転することができたので、スタッフ、メンバー共々とても売店に行きやすくなり、喜んでいます。仕事ばかりでなく、スポーツ(ソフトバレー、ソフトボール、卓球)をしたり、レクリエーションもあり、みんなで何をするのかを話し合いながら決めて楽しんでいます。



## 2004年度「共に歩む市民の会」総会・NPO法人設立総会報告

旭福祉保健センター 酒井 ルリ子

5月15日(土)に「ぱれっと旭」において「共に歩む市民の会」2004年度定期総会が行われました。議長に福島さんが選出され、司会は香取さん(日向台病院)、書記は森さん(旭福祉保健センター)が担当しました。出席者は23名、委任状27名で総会成立となりました。議事は滞りなくすべて承認されました。

語らい電話の利用者の中で、話を聞くだけではなく答えを求めてくる電話も増えてきており、今後ニーズにどう答えていくかが検討課題としてあがりました。

また、ピアサポートは20件という実績ができ、パンフレットも完成して、今後ますますニードが増えるであろうということが予測されます。びあくらぶニュースをタイムリーに発行していく、皆さんの参加の機会につなげたいという意見が出されました。

事務局には新たに日向台病院を加て4団体としました。

予算は生活支援拠点が2005年1月に開設予定のため、12月までの9ヶ月分の予算となっています。市民活動助成金は3年限定で受けていたので今年度はなしということでした。

続いて共に歩む市民の会 NPO法人設立総会報告が行われました。高橋さんから設立趣意書案、定款案、設立初年度及び翌年度の事業計画書及び収支予算書について提出され、全て承認されました。

役員選任の件では理事長に高野さん、副理事長に田山さん、深井さん、高橋さん、事務局長に川田さんが選出されました。

実際にNPO法人となるのは手続き上の関係で10月頃の予定となるようです。



### 編集後記

☆白熱したオリンピックも終り、同時に会報12号も大詰めを迎えました。日本競泳人の活躍に負けないくらい今回はスピードイーに作業が終わり、ホッと胸をなでおろしました。

(森 輝幸)

◎アテネオリンピックで大活躍の若人たちに感動！ヤングパワーにあやかりたいものです。背高ノッポの松元ですが、「市民の会」には細く長く関わらせていただきたいと思います。

(松元 紀子)

※異例の猛暑に加え、オリンピック熱でバテバテ…にもかかわらず広報12号発行のこのスピードイーさ！寄稿してくださいました皆さん&他の広報担当者に感謝です(^\_^;)へ

(高木 文穂)

◎オリンピックの17日間はTVに釘付けの生活でした。私も頑張らなくちゃという熱い思いが取敢えずは広報の作成に向けられ、無事に発行できそうです。良かった。ヨカッタ。

(松迫 敦子)